



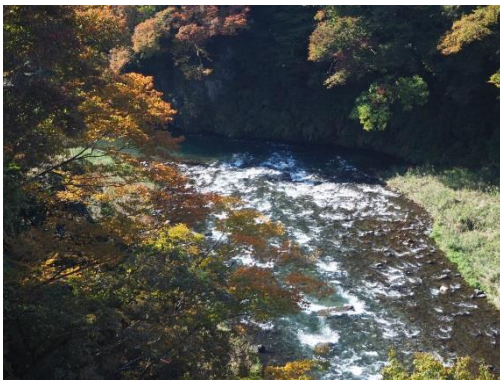
秋の散策は青梅路

青梅きもの博物館と吉川英治記念館を訪ねて

小林 太

晩秋の霏雨の漂う文化の日、11月3日に明治大学校友会東京都北部支部の北区地域支部が主催する秋の散策に参加させていただきました。

東京都北部支部は、西東京市の他に練馬区、板橋区、豊島区、北区、荒川区、文京区の地域支部で構成されており、これら7つの支部の交流を目的として北区地域支部の企画によりお招きに与りました。今回は東京都北部支部からの強力な後方支援もあり、総勢 25 名の校友が参加致しました。我が西東京市地域支部(西東京紫紺会)からは、濱田支部長と私、小林 太が参加させていただきました。



昨年、西東京紫紺会の散策で御嶽の玉堂美術館や澤乃井へ行った事もあったせいか、青梅付近から見る景色は一年ぶりの再会といった感がありました。



日向和田駅で現地集合し、まず向かった先は「青梅きもの博物館」でした。女性にも気軽に参加出来る様配慮したという事でしたが、その中身は

明治、大正天皇やその御一族のお召し物が展示されており、男性でも楽しめるものでした。小さな家の佇まいとはうってかわり、私的によくここま
で収集できたものだと驚きの連続でした。

この博物館の管理をされている方は、今回企画された北区
支部の方との事。何処でどう関係が繋がっているか判らないも
ので、改めて小さな集まりにも縁の大切さを知りました。12月
から3月までは休館し、また新たな装いで御目見えするとの
事、また機会があれば観に行きたくなる場所でした。



そして昼食後に向かったのは、吉川英治記念館。戦前の昭和19年から9年ほど
吉川が生活していた邸宅でしたが、大きな庭園と幾つもの建物に驚くだけでなく、
吉川英治一人の印税からの所得税で、邸宅のあった当時の吉野村(今の青梅市の
一部)の税収が賄えたという事実に、溜息が出る程でした。引越の時は、村をあげて
のお別れ会がそこで催されたとの事。村からも愛された文豪を知る事が出来ました。



記念館の見学を終えてからは、神社への
散策が始まりました。青梅は源頼朝が立ち
寄った場所としても有名ですが、現在の武
蔵嵐山周辺を治めていた畠山氏が、鎌倉へ
馳せ参じる中継地点とした場所。武運長久

を祈る神社が多くありました。

中でも忘れられないのは即清寺の階段があまりにも急だったこと！

明治大学駿河台校舎近くの猿楽町にある「男坂」よりも急階段ではないかと思ひます。東京都観光財団指定ボランティアのガイドさんも同行しての散策でしたが、あまりにも階段が多くゼイゼイ(笑)

そんなこんなの散策でしたが、最後は再び青梅きもの博物館に戻り、お待ちかねのお酒も入った懇親会。いつもとはちょっと違った宴を楽しみました。



こういった企画というのも、本当に楽しいもの。またあったら行ってみたい気分になりました。

最後になりましたが、この素晴らしい散策を企画して下さった北区地域支部の方々に厚く御礼申し上げます。**ありがとうございました。**

2022.11.13

小林 太